

# 学校だより 熱 砂

<発行>  
令和2年1月13日  
発行責任者：校長  
和田 政男

## 令和2年3月、帰任教員のお知らせ

日本の文部科学省からの派遣教員のうち、今年度3月に任期を終え帰国する教員が決定し、文部科学省から通知がありましたのでお知らせいたします。

東上 渉（本校勤務3年）、前橋 有（本校勤務3年）、平野 俊夫（本校勤務2年）

以上です。

派遣教員は2年間の任期の委嘱状をいただいて赴任して参りますので、体調等問題がなければ最低2年、その後延長が認められれば（出身県によって異なります）最大4年まで勤務することが可能になるというのが原則です。上記3名の先生方は、それぞれの任期を全うしての帰任となります。これまでのご勤務大変お疲れ様でした。また大変お世話になりました。今後ともそれぞれのステージでご活躍されることを心より祈念しております。

後任につきましては、まだ内定の段階ですので明らかにできませんが、文科省からの通知がすでに来ております。適切な時期にお知らせいたします。

### 「私たちは何のために学び続けるのか」

「この学校はどこを目指して運営されるべきなのか？」という大きなテーマに基づき、学校のランド・デザインを策定すべく、先生方が時間を見つけては熱心な意見交換を行っています。

そんな先生方の意見交換会に参加しながら、私が教員人生の中でたびたび生徒に投げかけてきた「ひとは何のために学び続けるのか」という問いを思い出しました。

私は中学校の教員でしたので、中学生にこの問いを投げかけると「目的とする高校に入るため」「良い仕事に就くため」「将来の夢を達成するため」などという答えが返ってきたものでした。

児童・生徒の皆さんはどう考えますか？

この問いに正解はありません。ひとが学ぶ動機や理由はひとそれぞれです。

でも、目的の高校に合格したら学ばなくてもいいの？目的の大学に入ったら学ばなくてもいいの？目的の職業に就いたら学ばなくてもいいの・・・？

そうではありませんよね。

当初の目的を達成した後もひとは学び続けます。皆さんのお父さんやお母さんも、今も学び続けています。学校の先生方も、校長先生も今も学び続けています。「職務を円滑に遂行するため」「より良く社会貢献するため」など、ここでも理由は様々考えられます。

ここで、考える材料としての話題を二つ紹介します。

#### <その1>

私がある中学校の教頭をしていた時でした。その中

学校を卒業した、東京に住む初老の女性から電話をいただきました。中学校の卒業証明書を発行し、送ってほしいというものでした。詳しく聞いてみると、

「私はその中学校を卒業したが、当時は家庭の経済的な事情から高校に進学することはできなかった。今、子どもたちも独立し、夫も仕事を退き、自分の時間を持ってそうなので、今から高校に進学したい。」ということでした。

さて、この初老の女性は、何のために高校に進学し、何のために学び続けようとしているのでしょうか。

#### <その2>

あるとき、新聞の日曜版を眺めていたら、ある大学の大学院研究室で、76歳の男性が、72歳の老教授の指導の下、「アダム・スミス」の研究をしている、という記事を見つけました。

アダム・スミスというのは、18世紀に活躍したイギリスの経済学者、哲学者で、「国富論」という経済学書が有名ですが、いったい、このお年寄りは何のためにこのような研究を続けているのでしょうか？

私にも私なりの答えがありますが、ここでは明かしません。（校長室に聞きに来たら、教えてあげるかもしれません。来るときには自分の考えを持ってきてくださいね）

上記の二つの話題を基に、「ひとは何のために学び続けるのか」を、たまには友達同士、家族で話題にしてみたいかがでしょう。